

か乗り切れたのは、ひとえに栗原の願いを聞いてくださった多くの学会員のおかげである。

島袋寛盛さん(瀬戸内水研)には他県であるにも関わらず大会実行委員を引き受けてもらい、講演プログラム作成の折には時間を割いて尽力いただいた。中山剛さん(筑波大学)には、本大会でも講演プログラムの版下作成を引き受けていただいた。また、講演プログラム編集や座長候補選定についてご意見をいただいた諸先輩方(あえて匿名)、突然の座長依頼にもかかわらず快く引き受けて下さった24名の学会員の協力なしには、印刷原稿提出期限はおそらく守られることはなかったと思う。九州大学各部局(本部入試課、農学部アニマルサイエンス分野、理学部生物学科、歯学部学生係、薬学部学生係)からはポスター発表用ボードをお借りすることができた。お陰でかなりの経費削減につながった。藻類学ワークショップ全体の企画立案を引き受けてくださった河地さん(前出)、藻類学ワークショップIIの会場を提供して下さった九州大学大学院農学研究院附属水産実験所、淡水

藻観察会のガイド役お二人を引き合わせて下さった当研究室のOBでもある吉田忠生先生にもこの場を借りて厚くお礼申し上げる。

末筆ながら、日本藻類学会庶務幹事の方々には大会準備の段階で様々な相談に乗っていただいた。また、突然の大会実行委員副委員長要請を引き受けて下さった福岡女子大学の山田真知子さんには大会運営でご尽力いただいた。大会直前の準備作業ならびに大会運営では、福岡女子大学の環境生物学研究室、九州大学農学部の学生諸氏(岩切彰吾・大石隆一・岡村海咲・木屋哲郎・後藤靖裕・中島有紀子・濱崎智美・松瀬智晶・水戸谷勇樹・山口翔子・脇坂拓芳、五十音順)には十分すぎるほどの作業をこなしてもらった。それぞれの方に深謝申し上げる。なお、初の赤字決算かと心配された大会運営だったが、儉約と数多くの当日参加申込のおかげで健全会計で終われたことを報告する。

(九州大学)



岡村先生の採集道具

わらじきやはん

没後80年を迎えた岡村金太郎先生(1867—1935)が使用された採集道具を紹介したい。岡村先生がとりわけ足繁く通ったのは相模湾で、そのなかでも江の島は『海藻の江の島』(1923)と題した随筆に「全く江の島は名所の江の島でもあり海藻の江の島でもある」と書くほど気に入っていた。観光地で海藻を採集する研究者が挙動不審にみえるのは今も昔も変わらないようで、「何千何萬人と云ふ(見物人のいる)中で草鞋脚絆に身をかため、時には尻に窓のあるヅボンに採集胴籠を肩にし、辨當首に風呂敷で巻き付け」た姿で採集する自分を「(観光地に)一種異様の風態をしていくのは我々海藻採集家」と自虐的に表現している。そのときのものかどうかは分からないが、岡村先生の足袋、脚絆、採集袋が、旧植物分類学教室の血筋を引き継ぐ北海道大学大学院理学研究院生物科学部門多様性生物学分野系統進化学講座IIに保管されていた。撮影を許可して下さった同講座の小亀一弘先生に感謝申し上げます(北山)



岡村先生の採集用具：足袋(左)、脚絆(中央)、採集袋(右)。北海道大学大学院理学研究院系統進化学講座II所蔵。